

欄に数値またはコメントを記入

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
0 建築物の環境品質・性能						3.4
Q-1 室内環境			0.40			3.5
1 音環境		3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能	サッシ遮音等級T2	5.0	0.60	3.0	-	
1.2.2 境界遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.2	0.35	-	-	3.2
2.1 室温制御		3.5	0.50	-	-	
2.1.1 室温設定		3.0	0.30	3.0	-	
2.1.2 換気変動・遠征制御性		-	-	-	-	
2.1.3 外皮性能		3.0	0.20	3.0	-	
2.1.4 ゾーン別制御性	事務室系統はベリメーターとインテリアの2系統に分けている。	4.0	0.50	-	-	
2.1.5 振揺・湿度制御		-	-	-	-	
2.1.6 個別制御		-	-	-	-	
2.1.7 時間外空調		-	-	-	-	
2.1.8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.3	0.25	-	-	3.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	
3.1.1 昼光率	昼光率4.3	5.0	0.60	3.0	-	
3.1.2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
3.2.1 遮断装置のグレア		-	-	-	-	
3.2.2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.3.1 照度		3.0	1.00	3.0	-	
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		4.2	0.25	-	-	4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
4.1.1 化学物質汚染	F 〇の材料を90%以上使用	5.0	1.00	3.0	-	
4.1.2 化学物質対策		-	-	-	-	
4.1.3 化学物質対策		-	-	-	-	
4.1.4 化学物質対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
4.2.1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	
4.2.4 換気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
4.3.2 喫煙の制御	喫煙室が各階に計画されており完全分煙としている。	5.0	0.50	-	-	
Q-2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.6
1 機能性		3.5	0.40	-	-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.60	-	-	
1.1.1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-	
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.3	0.40	-	-	
1.2.1 広さ感・景観	天井高2.7m。窓を3方に設置。	4.0	0.33	3.0	-	
1.2.2 リフレッシュスペース	喫煙室、リフレッシュルーム、自販機置場が計画されている。	5.0	0.33	-	-	
1.2.3 内装計画	ホルダーのイメージを内外で統一。照明計画、インテリアパスを作成	4.0	0.33	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.7	0.31	-	-	3.7
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-	
2.1.1 耐震性	建築基準法に定められた20%増の耐震性を有する。	4.0	0.80	-	-	
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		4.1	0.33	-	-	
2.2.1 外壁仕上げ材の補修必要間隔	アルミカーテウォール40年、外部アルミ30年	5.0	0.29	-	-	
2.2.2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:タイルカーペット20年、天井:ボード25年	5.0	0.12	-	-	
2.2.3 配管・配線材の更新必要間隔	空調配管18年~20年、電気配管・配線20年以上	4.0	0.29	-	-	
2.2.4 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.29	-	-	
2.3 適切な更新		-	-	-	-	
2.3.1 屋上/屋根/外壁仕上げ材の更新		-	-	-	-	
2.3.2 配管・配線材の更新		-	-	-	-	
2.3.3 主要設備機器の更新		-	-	-	-	
2.4 信頼性		3.2	0.19	-	-	
2.4.1 空調・換気設備	各室個別運転を行っている。	4.0	0.20	-	-	
2.4.2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
2.4.3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
2.4.4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
2.4.5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.7	0.29	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1 階高のゆとり		階高3.9m	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		壁の長さ/専有面積 = 0.182	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.7	0.38	-	-	
1 空調配管の更新性		システム天井を採用している。	4.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性		PSを設置	4.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性		空配管対応	5.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性		空配管対応	5.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース			3.0	0.22	-	-	
Q-3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		31mセットバック、屋上緑化、再生ホルダーによる周囲との調和	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		木彫り材の使用、1階ロビーのセットバック、バルコニー壁面緑化、防犯	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR-1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用		ダブルスキンによる自然換気設備	4.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR = 18%	4.0	0.30	-	-	4.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		運用、維持、保全の基本方針が計画されている	4.0	0.50	-	-	
LR-2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム			3.0	0.67	-	-	
2 雑排水利用システム			3.0	0.33	-	-	
2 低環境負荷材			3.8	0.85	-	-	3.8
2.1 資源の再利用効率			4.3	0.35	-	-	
1 躯体材料の再利用効率		主要構造躯体に電炉鋼を使用。	4.0	0.67	-	-	
2 非構造材料の再利用効率		二重床、パーティクルボードに再生建築資材を利用	5.0	0.33	-	-	
2.2 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.04	-	-	
2.3 有害物質を含まない材料		ビニルシート接着剤、防水工事グライム、建具塗料、壁塗装	5.0	0.08	-	-	
2.4 既存建築躯体などの再利用		既存躯体を山止めとして再利用	4.0	0.18	-	-	
2.5 部材の再利用可能性			3.0	0.18	-	-	
2.6 フロン・ハロンの回避			3.0	0.18	-	-	
1 消火剤			3.0	0.33	-	-	
2 断熱材			3.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR-3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.8
1 大気汚染防止		オール電化を採用。ガス燃焼設備を設置しない。	5.0	0.15	-	-	5.0
2 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.15	-	-	3.0
2.1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2.2 振動			-	-	-	-	
2.3 悪臭			-	-	-	-	
3 風害、日照障害の抑制			3.0	0.15	-	-	3.0
3.1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
3.2 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
4 光害の抑制		屋外広告塔を設置しない、透明ガラスとし反射率8%と低く抑える。	4.0	0.10	-	-	4.0
5 温熱環境悪化の改善			1.0	0.30	-	-	1.0
6 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.15	-	-	3.0
6.1 雨水処理負荷抑制			-	-	-	-	
6.2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
6.3 交通負荷抑制		付置義務(28台)に対して43台の駐車場、荷捌きスペースの確保。	4.0	0.33	-	-	
6.4 廃棄物処理負荷			2.0	0.33	-	-	

LR-1 用途別得点表		事務所	-	-	-	面積按分 総合スコア
1 建物の熱負荷抑制		5000 m ²	-	-	-	3.0
3 設備システムの 高効率化		ERRによる評価	4.0	-	-	4.0
		個別設備による評価	-	-	-	
3.1 空調設備			-	-	-	-
3.2 換気設備			-	-	-	-
3.3 照明設備			-	-	-	-
3.4 給湯設備			-	-	-	-
3.5 昇降機設備			-	-	-	-